



親子でなにわ新発見!

おとなと子どもがともに楽しめる講座やイベント、施設を体験レポートします。

今回ご紹介するのは「水道記念館」です。



夏のおでかけは涼しく...の巻

今回は、『水道記念館』におじゃましました。ここは、大阪市の水道施設として70年あまり稼働していたところを利用して1995年(平成7年)に博物館として開館したものです。建物は有形文化財として登録されているので、入館前に外観もぜひ見ておいてください。受付から見て、エントランス正面にあるのは水時計です。大きな時計の中で動いているいろいろな形の部品を見ていと飽きません。まずは正面から向かって右の方へ進んでいきます。大阪市の水道のものは琵琶湖から、ということを知ることが出来るコーナーへ。「琵琶湖パノラマ」で



は16分に一回、「琵琶湖の一日」と題したイベントがあります。雷が鳴って大雨が降ると、あまりの迫力に怖くなってしまいうちの子もいるほど。琵琶湖にすむ珍しい生物もここで見る事ができます。ピコオオナマズの大きさに驚き、図鑑でしか見られない魚たちに感動です。次は正面から向かって左の方へ。先ほどまでいた静かな雰囲気とは違い、子どもたちの笑い声が聞こえます。こちらは水の大切さ、環境を体を使って学習できます。「オゾンレンジャー」はモニターにうつる有機物質をオゾンになって処理していくゲームです。手足をいっぱい動かすので、屋内ながら結構な運動量になります。もちろん、知らないうちにオゾンのことも学習できるというわけです。他にもたくさんコーナーがありますからぜひ全部に挑戦してみてください。



夏休みイベントも充実。「びわ湖・淀川水系の淡水魚教室」では、淡水魚について学習します。

さあ、夏です!
大阪の真ん中で涼しく過ごせるおすすめスポットです。楽しむだけでなく、今回もちょっとお勉強...

希望者はふだん入ることのできない水槽の裏側へ入ることのできるツアーもあります。また、夏休み期間中は幼児向けにプールの貸し出しをしています。保護者がいれば自由に遊ぶことができますので、暑くなったらここへどうぞ。この他にも一年中いろいろなイベントが企画されていますから、ホームページなどで確認をしてください。そして今回はおすすめのおみやげがあります。コンビニなどでもみかけるペットボトル「ほんまや」は、大阪市の水道局が作っています。のどが渇くこの季節にはおすすめ。入口の自動販売機で購入できます。



今回おじゃました「水道記念館」は夏にほっとひと息入れたいときにおすすめです。暑い夏は屋内や水のあるところで過ごしたい、と思うもの。ここなら条件にぴったりです。「水の都大阪」をもっと好きになれますよ。自由研究の題材にどうですか?

(写真・文 梅木智子)

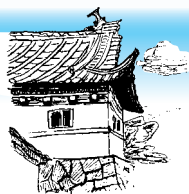
びわ湖・淀川水系の淡水魚教室

- 第1部 「淡水魚のおもしろい話」
「淡水魚の体の変化について」
- 第2部 淡水魚飼育棟バックヤードツアー
7/26(日)10:00～12:00
(第2部希望者のみ14:00まで)
対象 小学生と保護者
定員 20組40人(多数抽選)
費用 無料 申込 電話
締切 7/17(金)

*参加者にはペットボトルに入れたメダカをプレゼント!
(1組に1本)

水道記念館 <http://www.owgs.co.jp/water-museum/>

場所 〒533-0024 東淀川区柴島1-3-1
電話 6324-3191
FAX 6324-3114
休館 月曜(祝日の場合はその翌日)、
年末年始
費用 無料
交通 市バス「長柄橋北詰」「西中島一丁目」、
地下鉄「西中島南方」、
阪急「南方」「柴島」



おおさか歴史探訪 26

大阪の史蹟や歴史資料を毎号連続でご紹介します。

淀川のワンド ー自然と一体化した淀川改修工事の名残リー

みなさんは「ワンド」をご存知でしょうか。漢字で書くと「湾処」です。近畿地方では淀川の、特に旭区の菅原城北大橋の南詰あたりが特によく元の形を留めています。淀川の川べりに「水溜り」のようなものができていて、ここに天然記念物のイタセンバラやアユモドキといったわが国在来種の小魚をはじめ、さまざまな生き物が棲んでいることで知られています。

このワンドは自然の営みによってできたものではなく、実は河川改修工事によってできた人工のものなのです。淀川は歴史に残る暴れ川で、ひんぱんに洪水がおこり、流域の人々は大きな被害を受けていました。そこで明治になってオランダから技術者が招かれ、淀川の改修工事がおこなわれました。そのひとつとして「粗朶沈床工事」があります。簡単にいうと、木の枝を縛って井桁に編んで何重にも積み上げ、その上に割石をおもりにして沈め、土手のようにすることです。これを岸辺から川の中央に向けて一定の間隔をあけて連続して設置するもので、先端をT字状にしたところもあります。これにより洪水時に流水の勢いを弱め、護岸の役目を果たします。川の中央部は浚渫することにより、船の行き来がおこないやすくなります。

今ではすっかり自然に溶け込んで淀川の上流風景のように見えますが、実は明治期の大掛かりな治水工事の名残りだったのです。水位が下がったときには、おもりにして載せている割石が露出していることもあります。

